

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア神の倉 1階		
所在地	愛知県名古屋市緑区赤松504		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kanistrue&ijyosyoCd=2391400260-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の要望を取り入れながら、季節に合った行事を企画しています。また、ラジオ体操も日課にしています。散歩をしたり、青空のもと茶話会を楽しんだり、法人内のキッチンでは多種多彩な献立になっており食事もしみのひとつです。医療連携も24時間体制で安心安全を提供しています。ご利用者様のペースに合わせ残存機能を活かせるように自立支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らし」を理念に掲げ、月間目標に落とし込んで実践しています。「利用者が困ることは臨機応変に声を上げてほしい」「早い介助が良い介護ではない。焦らなくていいからコミュニケーションを取って安心できる人になってほしい」「一人で頑張るのではない。自分だけで全部負わないようにしましょう」など、利用者はもちろん職員にも配慮ある管理者の声かけがなされ、「パジャマは寝る前の更衣で良いのでは」「この人にオムツは必要ないのでは」といった一人ひとりを見つめる職員の発案と、利用者の豊かな表情に実り、「ファミリア神の倉」としての人材育成が推進されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーとし、事業所月間目標を掲げて意識向上を図り、共有して実践につなげている。	理念は事務所と玄関に掲示し、月間目標に落とし込んで共有しています。月間目標は毎月のミーティングで達成度の確認がおこなわれ、職員一人ひとりの振り返りとともに実践状況を話合うことで、理念の浸透と理解度が深まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の際挨拶をかわし、近隣の喫茶店では馴染みの場所である。中学生の職場体験の受け入れや、子供110番の委託場所になっています。消防署職員指導のもと消防訓練を行っています	4年ぶりとなった中学生の職場体験をはじめ、敬老会、クリスマス会といったイベントにはボランティアを受け入れ、活気が戻りつつあります。今後は、近隣から通う職員が地域への発信源となることも視野に入れ、事業所の認知度が高まることを目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に運営推進会議を開催。支援センター様同席のもと事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスも頂いている。出た意見はサービス向上に活かしている。	今年度より通常開催として、いきいき支援センター職員、社協後見人、利用者が出席し、事業所の利用状況や活動、ヒヤリ・アクシデント報告をおこなっています。地域密着型サービスとしての役割が果たせるよう、出席メンバーを増やすことは課題としています。	引続き自治会長、民生委員へ議事録を届けて取組みを伝え、運営推進会議への出席とともにメンバーを増やし、事業所理解が進むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録は行政や支援センターに届け事業所の現状をお伝えしています。時に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようにしています。	離設があった際には徳重支所の協力により大事に至らず、情報を共有しながら「困ったことがあれば相談を」との言葉ももらえています。いきいき支援センターからの入居相談で、受入れの際には詳細な情報提供があり、入居後の支援にも連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。親しさと馴れ合いは違うことを常に職員に伝えていきます。ホーム内は自由に行き来している。	身体拘束廃止委員会の定期開催をはじめ、年2回の研修と新任職員研修も滞りなく実施されています。転倒リスクや離設防止は居室環境などのハード面と、職員体制や職員の意識といったソフト面から検討し、拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して話し合いができる環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。聞き取った家族の意見や要望は記録している。意見箱の設置。	時に苦言もありますが、事業所の課題として受け止め、改善策をもって対応しています。毎月発行する「神の倉通信」は紙面いっぱい写真が掲載され、レクリエーションや趣味に打ち込む真剣な様子やとびきりの笑顔、おどけた表情などが豊かに映し出されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。自主性も尊重しながら職員が意見が出しあえるように取り組んでいる。	会議の場では意見も控えめでしたが、予め議題を募ったり、「利用者が困ることは臨機応変に声を上げてほしい」という管理者の声から、「〇〇さんはパッドも必要ないのでは」「パジャマは寝る前の更衣で良いのでは」といった利用者目線での意見が活発になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携が図れるようにしている。評価制度の導入。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を重ねサマリーを作成。情報をもとに信頼関係をつくり、日々の行動や表情からも読み取り、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や面談、電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向に耳を傾け、先ず必要としているケアは何かを考え一人一人の行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっている。出来ることがあれば職員と一緒に作業をしている。共に楽しみ学ぶことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況や身体報告をして情報共有し、双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう環境づくりを心掛けている。ご家族様協力のもと、馴染みの美容院や墓参り、友人に会いに行かれています。電話の取次ぎもしています。	さまざまな制約があった面会も、マスク着用、手指消毒、体調確認をおこなったうえ、居室で受入れています。遠方の家族が訪ねてきたり、毎週訪問する家族、外食や自宅への外出など賑わいをみせ、コロナ禍で閉ざされていた安堵の表情を引き出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と孤立せず一緒に関わり合いが持てるようにテーブルや座席の配置を考えたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。退所後も報告をいただくことでフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向が把握できるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。言葉にうまく表現できない方には表情から察するように努めている。	「喫茶店に行きたい」「散歩に行きたい」、テレビを見ながら「美味しそう」「○○食べたい」といった日頃の会話から本人の言葉を職員間で共有し、実現に結びつけています。言葉による発信が難しい利用者には職員が選択肢を挙げて聴き取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き話し合いの場を設け介護計画を作成している。週1回のモニタリングを行い1か月毎に評価。カンファレンスで職員は共有している。半年または状況変化時には担当者会議を開催して意見が言えるような環境づくりを心掛けている。	各ユニットに計画作成を配置し、うち一名が介護支援専門員です。担当職員によるケアチェック要約表の評価を基にカンファレンスをおこない介護計画を作成しています。サービス担当者会議には家族も出席をお願いし、無理な場合は電話で意見を聴取しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内外各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の受け入れや、ボランティアや消防訓練時には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療の受診も紹介状を作成し対応。同法人からの訪問看護事業所から看護師が週1回健康管理を行います。	母体病院との連携により、緊急時には24時間いつでも対応してもらえる体制にあります。月2回の訪問診療には管理者が立ち会い、結果は「医師看護師指示及び変更等の記録表」「個別ファイル」に記録するとともに変更点は即日電話で家族に報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や訪問看護契約を交わし処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換や面談や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。	入居に際しては「重度化をした場合における対応に係る指針」にもとづいて説明しています。医師の判断によりターミナルケアの可能性が示された場合、本人や家族の意志を尊重し、家庭的な環境の中で生活が続けられるよう配慮するとして、看取りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いの元通報、初期消火訓練を行い避難訓練の評価やアドバイスをいただいている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施しています。消防署職員からは、避難の重要性もさることながら、現場の確認も必要であること、年2回に限らず、できるだけその機会をもつことが大事であるとのアドバイスを、次回の訓練に活かしています。	業務継続計画策定後は、研修等による職員への周知と運用、見直しが図られることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりの中で個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。	12月の月間目標は「言葉遣い」とし、スピーチロックへの戒めとともに「呼称はお客様だから「さん」付けでは？」「違和感がある人もいるかもしれない」といった意見が出されるなかで、常にお客様であるという意識、誠意を持った接し方をしてほしいと伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、更衣時にも意向もききながら準備支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。おやつも食べたいものや飲みたいものなどを聞くことで食の楽しみをつくっている。喫茶レクも楽しまれている。	月担当職員により、お正月の春巻きやパンケーキ作り、茶話会など、楽しめる企画も用意されています。食器洗いや片付けを率先して受け持ち、職員と見まがうほどの利用者もおり、感謝の言葉とともに気持ちよくやってもらえるよう声をかけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンの配送としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握をしながら、支援している。低栄養の方は医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をいただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。	自立支援で布パンツになった事例もありますが、紙パンツの違和感がストレスとなる人もいて、失敗には早期対応で不快感を取り除き、日常を快適に過ごせるようにしています。また、便秘から生じる身体不調を予見し、マイナス3日で排便コントロールとしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと下剤にてコントロール。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。	週2回の入浴はタイミングを見計らい、気持ちよく入れるよう声をかけています。無理強いすることで入浴嫌いが助長されないよう、時間を置いたり、職員が交替して誘うことで功を奏しています。柚子や菖蒲を購入して、季節の変わり湯も取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう随時、休息時間の確保もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できるようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけたし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。	天候や職員体制によりますが、「外に行きたい」気持ちに寄り添いつつ、車いすの利用者でもまんべんなく出かけられるようチェック表を作って散歩を実施しています。近所の公園や、春には川沿いの桜も散歩コースになっており、お正月には初詣も企画しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談して代行し購入している。散歩や喫茶店、コンビニに出かけている。駐車場で日光浴やおやつを食べる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。	法人の指示に従った感染症対策で清潔な環境を保持しています。利用者との協同制作や得意な職員による切り絵やちぎり絵で壁面を飾り、12月はクリスマス、1月は年の初めの華やかな雰囲気醸し出すなど、毎年新しい作品を手がけて四季の彩を添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただくなど居心地の良く過ごせる工夫をしている。同線確保のためのレイアウトも考えて、小まめに居室の安全にも配慮している。	ベッドとカーテン、エアコンが備付けとなっています。家族と一緒に持ち込んだもののレイアウトを決めてもらっていますが、ベッドはその人の身体状況により配置を工夫しています。視力に不安がある人には、入口までの動線を白いテープで示すといった配慮もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口には表札をつけている。廊下にはテーピングをして迷うことなく自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア神の倉 2階		
所在地	愛知県名古屋市緑区赤松504		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kanistrue&ijyosyoCd=2391400260-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和5年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の要望を取り入れながら、季節に合った行事を企画しています。また、ラジオ体操も日課にしています。散歩をしたり、青空のもと茶話会を楽しんだり、法人内のキッチンでは多種多彩な献立になっており食事も楽しみのひとつです。医療連携も24時間体制で安心安全を提供しています。ご利用者様のペースに合わせ残存機能を活かせるように自立支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らし」を理念に掲げ、月間目標に落とし込んで実践しています。「利用者が困ることは臨機応変に声を上げてほしい」「早い介助が良い介護ではない。焦らなくていいからコミュニケーションを取って安心できる人になってほしい」「一人で頑張るのではない。自分だけで全部負わないようにしましょう」など、利用者はもちろん職員にも配慮ある管理者の声かけがなされ、「パジャマは寝る前の更衣で良いのでは」「この人にオムツは必要ないのでは」といった一人ひとりを見つめる職員の発案と、利用者の豊かな表情に実り、「ファミリア神の倉」としての人材育成が推進されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーとし、事業所月間目標を掲げて意識向上を図り、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の際挨拶をかわし、近隣の喫茶店では馴染みの場所である。中学生の職場体験の受け入れや、子供110番の委託場所になっています。消防署職員指導のもと消防訓練を行っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に運営推進会議を開催。支援センター様同席のもと事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスを頂いている。出た意見はサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録は行政や支援センターに届け事業所の現状をお伝えしています。時に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。親しさと馴れ合いは違うことを常に職員に伝えていきます。ホーム内は自由に行き来している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して話し合いができる環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。聞き取った家族の意見や要望は記録している。意見箱の設置。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。自主性も尊重しながら職員が意見が出しあえるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携が図れるようにしている。評価制度の導入。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を重ねサマリーを作成。情報をもとに信頼関係をつくり、日々の行動や表情からも読み取り、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や面談、電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向に耳を傾け、先ず必要としているケアは何かを考え一人一人の行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっていただいている。出来ることがあれば職員と一緒に作業をしている。共に楽しみ学ぶことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況や身体報告をして情報共有し、双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう環境づくりを心掛けている。ご家族様協力のもと、馴染みの美容院や墓参り、友人に会いに行かれています。電話の取次ぎもしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と孤立せず一緒に関わり合いが持てるようにテーブルや座席の配置を考えたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。退所後も報告をいただくことでフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向が把握できるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。言葉にうまく表現できない方には表情から察するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き話し合いの場を設け介護計画を作成している。週1回のモニタリングを行い1か月毎に評価。カンファレンスで職員は共有している。半年または状況変化時には担当者会議を開催して意見が言えるような環境づくりを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内外各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の受け入れや、ボランティアや消防訓練時には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療の受診も紹介状を作成し対応。同法人からの訪問看護事業所から看護師が週1回健康管理を行います。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や訪問看護契約を交わし処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換や面談や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いの元通報、初期消火訓練を行い避難訓練の評価やアドバイスをいただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりの中で個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、更衣時にも意向もききながら準備支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。おやつも食べたいものや飲みたいものなどを聞くことで食の楽しみをつくっている。喫茶レクも楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンの配送としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握をしながら、支援している。低栄養の方は医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をしていただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと下剤にてコントロール。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう随時、休息時間の確保もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できるようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけたし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談して代行し購入している。散歩や喫茶店、コンビニに出かけている。駐車場で日光浴やおやつを食べる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただくなど居心地の良く過ごせる工夫をしている。同線確保のためのレイアウトも考えて、小まめに居室の安全にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口には表札をつけている。廊下にはテーピングをして迷うことなく自立した生活が送れるようにしている。		